

生きていることばの教育で、 なぜ「自分の物語」が大切なのか

江崎正 (タイ・カセサート大学カンペンセン校

教養学部日本語科教員)

今日の流れ

前半

1. 「自分の物語」が大切になった背景
2. 日本語コースの実践報告（内容質問）
3. 前半の問題提起「自分の物語」について

後半

4. 私なりの「なぜ自分の物語か」と「対話が目指すもの」（内容質問）
5. 後半の問題提起「対話」について

私の言語観、教育観

- わたしの「ことばの教育」とは、幸福や社会変革を目指す。

「よりよく生きること」

「主体感覚（自分たちが社会を動かしているんだという感覚）を持つこと」

- なぜ「自分の物語」が大切なのか」とは、「自分の物語」が何を目指しているかを考えること。
- 今日は、視覚障がい者という体験や日本語コースの教員という文脈から、私が、どんな実践をしたのか、について話題提供する。

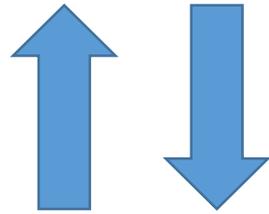
1. 「自分の物語」が 大切になった背景

2017年7月の話題提供とその後

- 2017年7月特別例会の話題提供
「社会ににつながる自己表現とは」
- 実践クラスを事例として話題提供
- タイのクーデター後⇒政治と教育の関係
- 軍事政権下で、どんな言語教育ができるか。
一つのコースでの試みを話す。

どう結びついているのか

自分の暮らしている地域や社会の問題



日常生活の中や身近なところからの自己表現

そのつながりが見えてくるには？日本語コースの中で、どうしたらいいのか？

視覚障がいと向き合って見つけた「自分⁸ のことば」で「自分の物語」を

- 2016年7月 網膜色素変性症という視覚障がいがある。
- 今の医学では治らない。進行性のある難病の一つ。
- 年を重ねるごとに視力が弱くなる、視野が狭くなる。
- 同じ障がいでも、人によって見え方が違う。

出てきた問題

- 仕事をどうするのか。視覚障がい者で言語教員が続けられるのか。
- 生活スタイルはどう変化するのか。
- 職場に伝えるか、学習者たちに伝えるか。
- 独りぼっち感が強くなった。

変化のきっかけになった対話

- 知り合いの方から同じ障がいの方を紹介してもらう。
- 同じ障がいの方や視覚障がいサポートの相談員とのカウンセリングに出合う。対話が始まる。
- その過程で、少しずつ自分の考え、視点が変わっていく体験をする。

対話から生まれた変化

- 障がいを隠さない。
- 自ら発信していく。障がいのことを理解してもらう。
- 社会の中で私の行動にどんな意味があるのか。
- いろいろなサポートを活用する。
- 今、ここを大切にする。人生を楽しむ。

変化から行動へ

- 職場に伝えた。
- 学習者たちに伝えた。自分の障がいと自分の気持ちを綴ったものを見せた。(参考資料1)

対話の変化から気づいたこと

- 「自分のことばで自分の物語を表現していく大切さ」
- 私が抱えている障がいを語るという当事者の表現は、「自分にしかできない表現」
- ほかの誰かに代わってしてもらうこともできない。

その気づきから

自分の生活の中にある事柄と他者との対話（関わり合い）の中から生まれてくる「自分の物語」を、ことばの教育でどう展開していくか。

- 「私の物語」は、人間であるなら、誰もが持っているもの。
- それを日本語コースで「一人ひとりの物語」として表現する場を作りたい。

2. 日本語コースの 実践報告



コースデザイン

- ① たくさんの「どうして?」や「言いたい、書きたい、伝えたい」の感情を引き出す。
- ② 「自分の体験、身近に起こっていること」と「自分が暮らしている地域」との間をつなげる。
- ③ 誰も答えを持っていない中で、他者と交わりながら考える。
- ④ じっくり一つのテーマを掘り下げる。

- コースで取り上げる場所を学習者たちの「大学」
- 「大学」と「学生生活」と結びつけた。
- 大学と学生生活を過去、現在、将来という時間軸で捉える。
(資料2 履修登録前に伝えたコース内容)

コース概要

期間:2019年12月~2020年3月

2019年度後期 15週間
1週間に90分×2回

学習者数:7人
英語主専攻4年生



手順 小さい問いを積み重ねていく 資料4 「大学のイメージ」

- 高校生のとき、「大学」という言葉を聞いて、どんなイメージがありましたか。
- どうして大学へ行こうと思いましたか。どんな理由がありましたか。
- 大学に入ったら、したいことがありましたか。
- それは何でしたか。

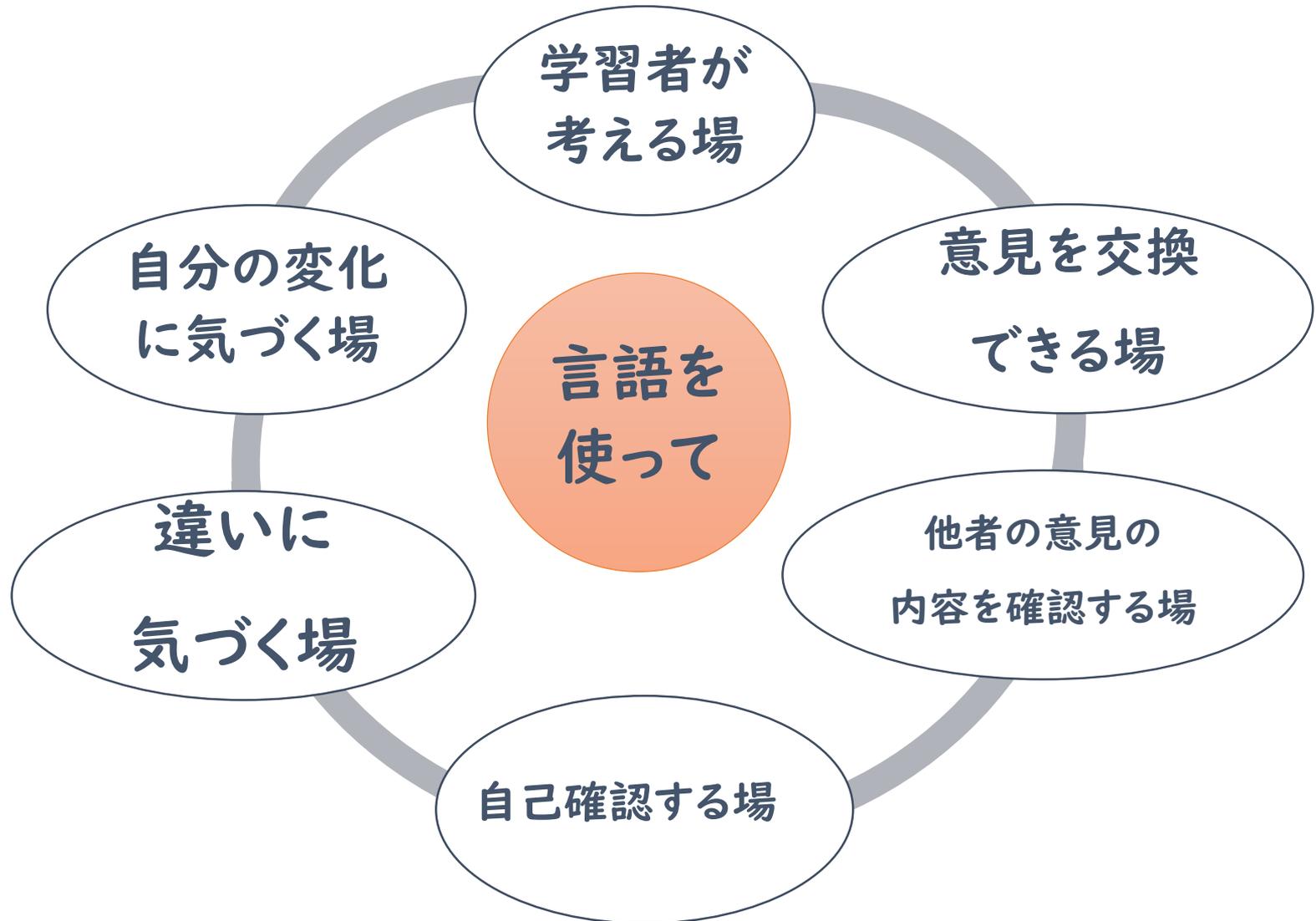
一つの問いの中での流れ

- ①学習者が各々、考える。話し合う。
- ②アイデアの内容を確認する。(こういう意味ですかという確認を繰り返す。)言いたいことがつまってしまったり、他の学習者がサポートしたり、一緒に考えたりする。

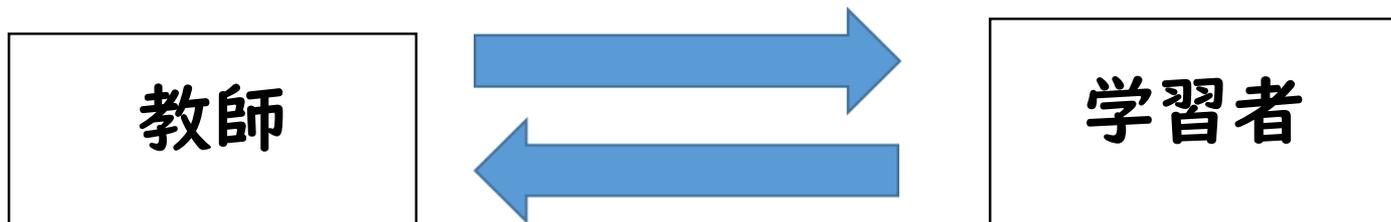
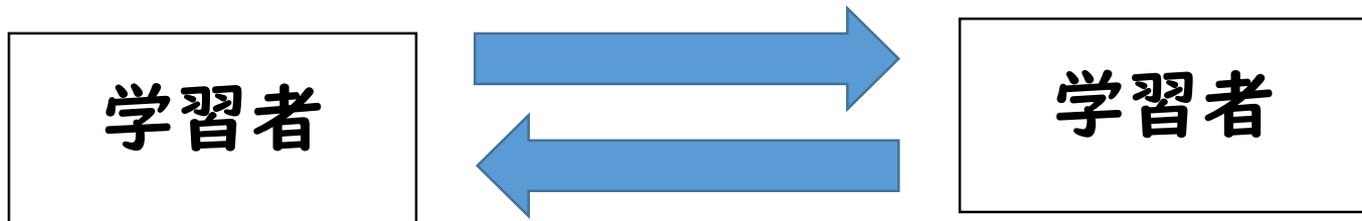
③出てきたものを記録する。記録することで、みんなと共有できる。言いたかった語彙、新たに出てきた語彙も書き足していく。

④質問の時間を設ける。

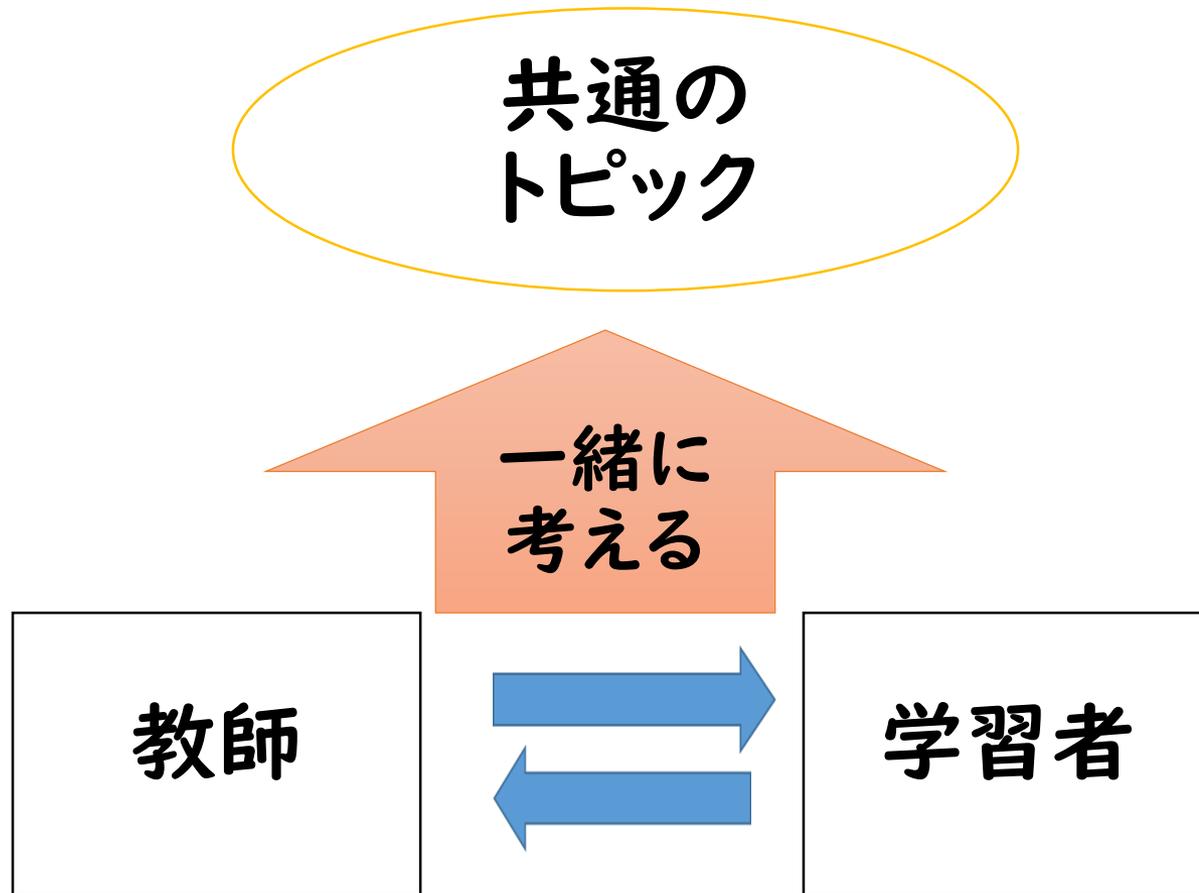
①に戻る。学習者一人ひとりがもう一度考える。話し合う。①から④を繰り返す。



「学習者と他の学習者の関係」
「学習者と教師の関係」



「教師と学習者が一緒に考える関係」



コースの流れ

Week
1 - 3

はじめに(資料3)

高校生の自分に戻る。

「どんな大学のイメージを持っていましたか」と
「なぜ大学へ行こうと思いましたか」
(資料4. 課題1)

Week
3 - 4
(お正月
休みの
課題)

家族に「私(履修者)が大学へ行っていること
について、どう思っているか」のインタビューを
行いました。
(課題2)

| Week | 内容 |
|-------------|---|
| Week 5-7 | <p>一人ひとりの体験から感じている大学の問題点を挙げる。</p> <p>問題を大きいカテゴリーに分ける。</p> <ul style="list-style-type: none">① 学びに関する問題② 自由の問題としての大学生の制服③ 安全な学生生活 交通アクセスの問題 (中間エッセイ) 一番大きい問題とは?) |

| Week | 内容 |
|-------------|---|
| Week 7-8 | <p>問題カテゴリー① 学びの環境に関する様々な問題と解決策 (課題3)</p> <p>どんな場所、空間が必要ですか。</p> <p>障がい者が大学で勉強するには何が必要か。</p> |

| Week | 内容 |
|--------------|---|
| Week 9-11 | <p>問題カテゴリー②</p> <p>自由の問題としての大学生の制服 (資料5、6)</p> <p>(新聞記事、動画も参考にして)</p> <p>制服について、どう思っていますか。</p> <p>制服のいいところ、悪いところ</p> <p>制服は、学生に、どんな影響がありますか。</p> <p>どうしてタイの大学に制服がありますか。</p> <p>大学の勉強と制服は関係がありますか。</p> <p>規則を変えるには？(課題4)</p> |

| Week | 内容 |
|---------------|---|
| Week 12-14 | <p>問題カテゴリー③ 安全な学生生活を送るために何が必要か。 移動に関する問題 解決策の提案（将来のために）</p> <p>キャンパス内と大学周辺を走るバスルートを考える。 （課題5）</p> |

| Week | 内容 |
|------------|---|
| Week 15 | <p>対面授業の中止</p> <p>作品集の手直し 履修者とのやり取りはFB, Messenger, Eメールで。 個別に取り組む箇所が違ってくる段階。一人ひとりがそれぞれのベストを尽くす。</p> |
| | <p>あなたにとって、大学生活で一番大切なことは何ですか。」(期末エッセイ)</p> |

コース全体を通して感じたこと

- 最初の一言が出た後は、いろいろな意見、アイデアが出てきた。
- ことばにつまったときは、みんなでサポートして進めていった。内容確認を丁寧にした。
- 話し合いの中で、新しい語彙や文法項目を追加していった。また必要であれば、復習もした。

- 学習者の興味・関心・そのときの話の流れで進み具合は変わるので、慌てないことが大切だった。
- 授業が終わった後は、意見やアイデアが一見バラバラに見えたが、振り返りのときには、様々な関連性が見えてきた。
- 話し合いの中で印象的な発言に出会えた。

私が考える「自分の物語」とは

- 自分の過去の体験、常に変化する感情、毎日の生活、今置かれている状況、将来を想像する力、日々の他者との関わりの中で変化し続ける考えや意見
- 一人ひとりが異なる文脈を持っている。

3. 前半の問題提起「自分の物語」について

- ① 過去に、どんな「わたしの自分の物語」や「他者の自分の物語」に出会いましたか。どんな場面で、それは起こりましたか。

- ② 毎日の暮らしの中で「自分の物語」にどのくらい関心がありますか。どのくらい大切だと思いますか。そこには、どんな理由がありますか。

4. 実体験や実践を通して考えた 私なりの答え 「なぜ自分の物語か」と 「対話を目指すもの」

私が考える「自分の物語」とは

- 自分の過去の体験、常に変化する感情、毎日の生活、今置かれている状況、将来を想像する力、日々の他者との関わりの中で変化し続ける考えや意見
- 一人ひとりが異なる文脈を持っている。

- なので「自分の物語」は、その本人自身にしか表現できない。
- だからこそ「自分のことば」で「自分の物語」は大切になる。
- そして他者との対話が必要になってくる。

私が体験した対話（ピアカウンセリングと実践クラスからの対話）とは

- 自分の物語がお互いにぶつかり合う場。
- そしてぶつかり合うことで化学変化が起こる場。
- 「よりよく生きる姿勢」や「主体意識」に気づく場。

熟議（合意形成、ルール作り）
幸福追求、社会変革への土台作り

よりよく生きる姿勢
主体意識

目指す
もの

自分の物語



対話

- 「自分の物語」「対話」を通して「よりよく生きる姿勢」や「主体意識を持つこと」を目指す。
- 「よりよく生きる姿勢」や「主体意識」のための「自分の物語」や「対話」は「熟議の土台作り」になる。

熟議 合意形成、みんなのためのルール作り

主体意識（自己決定権） 例えば

香港の「雨傘運動」、韓国の市民運動「ろうそく市民革命」、台湾「ひまわり運動」、沖縄の辺野古基地建設の住民投票、2020年のタイの反政府デモ

私なりの「対話が目指すもの」とは

- 視覚障がいサポートのピアカウンセリングや相談員の方々との対話、実践クラスの対話を通じて気づいた

「よりよく生きる姿勢」

「主体意識（自分たちが社会を動かしているという感覚）を持つこと」

5. 後半の問題提起「対話」について

- ③ 日常生活や職場で、どのくらい身近に対話の場がありますか。どのくらいオープンに対話ができていますか。みなさんが暮らしている場所で、どのくらい対話が根付いていると思いますか。

- ④ みなさんが考える「対話が目指すもの」とは何ですか。

ご清聴ありがとうございました。

えざき ただし

ezakitadashi@hotmail.com